

歴史街道メインルートと3つのネットワーク



「歴史街道」では、わが国を代表する数多くの歴史文化資源をわかりやすく紹介していくため、5つの時代別ゾーンを結ぶメインルート(伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸)と、地域の特徴を活かした3つのネットワークを設定しています。

「歴史街道計画」は、これらを舞台に、「美しい日本」を創造するとともに、日本の歴史文化を内外に発信し、「観光立国」実現の大きな一翼を担おうとするプロジェクトです。

『「歴史街道」づくりの提言』

(1988年3月「世界を考える京都座会」より発表されたもの)

外国人に「日本について何を知っていますか」と尋ねると、まず返ってくるのは商品と企業の名前です。経済大国の日本としてそれは当然でしょうが、それ以外のことがほとんど知られていないのは寂しいことです。文化や歴史、功績ある人々の名前などがほとんど知られていないのです。

「人間の顔のない経済大国」、「商品を吐き出すブラックボックス」。日本に対するこうした評価は正しいものではありませんが、私たち日本人もこれまでは、自国の文化や伝統、こころや生活感覚を世界に知らせようという意識が薄かったことも事実でしょう。いや今も、日本の文化やこころを知らせるのは、貿易摩擦のため、よりよい経済関係を深めるため、つまり経済が目的で文化やこころの問題はそのための手段という気持ちがあるのではないのでしょうか。

さらにいえば、私たち日本人自身も、物質的な豊かさ、物理的環境の快適さや便利さを追い求めるのに忙しく、その根底にある日本の文化や伝統や特有の発想について考える余裕を失っているきらいがあるのではないのでしょうか。

今や日本は、世界の16%もの生産力を持ち、世界の総輸出の5%にも当たる貿易黒字を計上し、世界中の貯蓄の半分以上を占める巨大な経済力をもつようになっています。日本の経済は、私たちの実感をはるかに超えて、国際化し巨大化しているのです。このままでは日本は「金儲けにしか関心のない国」という評価が定着してしまう恐れがあります。

このような現実を超え、日本人自身も外国の人々にも、長い歴史に培われた日本の文化とこころを深く認識するような実効ある具体的な計画を考える必要があると考えます。

そこで、私たちが着目したのは、日本の文化、日本人のこころが形成された過程を、その現場において見聞することです。

独特の風土を持ったこの国土で生まれた日本文化には、特有の性格があります。同時に世界にも類例のないこの国土の文明的位置の故に、東洋と西洋の文明を巧みに吸収し消化することもできました。現代の日本の文化と日本人のこころは、そうした歴史の成果として築かれたものです。従ってこれを正しく認識し深く理解するためには、歴史現場においてそれぞれの時代の文物と環境を味わうことが大切でしょう。

文化を知りこころを解するためには、書かれた文章を覚え、並べられた事物を知るだけでは充分ではありません。体験の記憶と自ら試みた実感をもって親しみひたるのでなければ、本当の文化を知ることにはならないのではないかと思います。

このような考え方から、私たちは日本の文化と歴史を体験し実感する旅筋、いわば「歴史を楽しむルート」としての「歴史街道」の開発整備を提唱するものです。

幸いにして日本では、主要な歴史の現場を、ほぼ歴史年代の順に訪ねる旅をすることができます。それは、さほど遠い距離でもなくあまり長い時間をかけることもない範囲にあります。つまり、「勤勉に楽しむ」日本人の性格にも、短い日数で日本を訪れる外国人にも、無理なく巡れるルートとなり得るのです。

この「歴史街道」構想は、日本人のところに伝えられてきた「生なり」の文化の源流というべき神話の地・伊勢からはじまり、古代から中世にかけての三つの都—飛鳥、奈良、京都—とその近郊を巡り、秀吉以降の商人文化の中心地「大阪」、明治以降の国際交流を象徴する神戸を結ぶこととなります。

勿論、日本文化の最も古い歴史をもつこの地域には、多くの歴史文物があり、伝統的な行事や芸術技能が保たれております。また、隠された文物や知られざるところの跡も多いことでしょう。さらにこれから追加すべき「もてなし」のハードやソフトの開発も重要になるでしょう。新しい技術や思想を吸収し活用してきた日本の歴史そのままに、高度な技術や斬新な発想を導入しなければならないことも多いに違いありません。快適な移動方法や多彩な楽しみの導入も大切です。「歴史街道」は、常に開発され更新される知的な観光ルートでなければならないと思うからです。

文化は突如として興るものではありません。伝統を大切にしない文化が長く栄えたためではなく、新しい技術と発想の導入なしに長く保たれた伝統もまたありません。豊かな国になった日本は、その歴史とところに根づいた文化を、歴史の現場から世界に発信する必要があります。私たちは、この「歴史街道」を現代に生かすことが、二千年の日本の歴史に新しい楽しみを加えると共に、百年後、千年後に現代の英知と繁栄を伝える試みでもあることを願うものです。

今、日本では新しい街づくり、新しい国際交流の場の建設が進められていますが、同時に先人から受け継いだ歴史の現場を、新たな知的興奮の舞台にすることも大切ではないでしょうか。

1988年3月

世界を考える京都座会

松下幸之助

天谷直弘 飯田経夫

石井威望 牛尾治朗

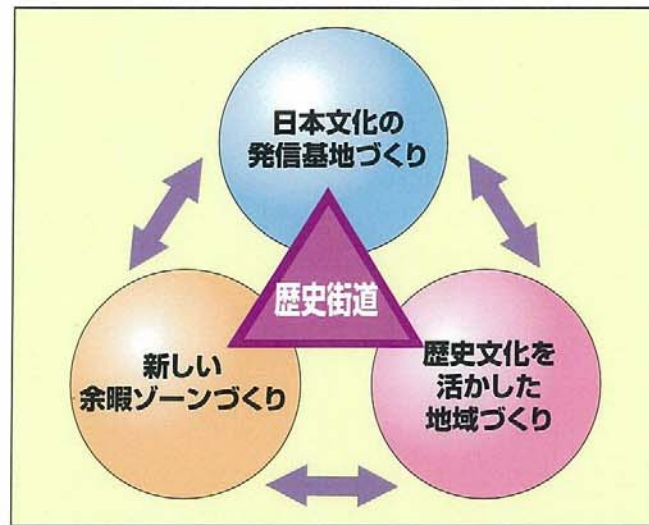
加藤 寛 高坂正堯

堺屋太一 斎藤精一郎

広中平祐 山本七平

渡部昇一

歴史街道計画の3つの目標



歴史街道二十一景



はじめに

歴史街道推進協議会は1991年に発足して以来、「日本文化の発信基地づくり」「新しい余暇ゾーンづくり」「歴史文化を活かした地域づくり」という3つの目標に取り組んでいる。

第五期計画までの18年間に、多くの方々のご支援により発足当初に計画された事業の多くが実現している。歴史街道推進協議会発足20年を迎える第六期計画以降は、これらの事業成果を有機的に結びつけ如何に活用するか、また、世界的に不透明な経済環境の中で予想される資金確保の困難な状況の中で、未達成の課題にどのように取り組み歴史街道の充実を進めるかが大きなテーマとなると考えている。

以上の基本認識に基づき、この第六期計画書の策定にあたり、まず、第四期計画までの実績成果を確認し、第五期計画の事業成果を総括して、限られた資源「人材・資源・資金」を如何に有効に活用するかという視点に立ち事業の再構築と強化に取り組むこととした。

「歴史街道計画」が目指している「歴史文化資源を活用した空間づくりや地域づくり」を進め、未来にわたって、人々に愛され親しまれる「日本文化の発信基地づくり」のために官民一体となって止まることなく一步一步着実に推進してゆく所存である。

平成21年6月
歴史街道推進協議会

I. 「歴史街道計画」の現状と課題

1. 第四期までの主要な取組み

マスタープラン・マスタースケジュール策定期間（1991～93年）

(1) 主な目標
①組織形成
②「歴史文化を活かした地域づくり」「新しい余暇ゾーンづくり」「日本文化の発信基地づくり」を柱とする全体計画と役割分担案の策定
③国とのパイプづくり
④「メインルート」に含まれない滋賀・福井・和歌山との調整
⑤「93年から3年計画で3つの目標（歴史文化を活かした地域づくり、観光振興、世界への日本文化の発信）の柱(中心事業)を確立」「3年単位での中期計画策定」などの申し合わせをおこなう
(2) 地域づくり面での進捗
①93年、「歴史街道モデル事業」が明日香（奈良県）と宇治（京都府）でスタート
②「各府県単位での実施計画策定」に関する申し合わせ。『『ならのみち』歴史街道構想推進検討委員会報告書』、京都府「緑と文化のふれあいサイン（歴史街道関連）基本計画等」が策定（93年）
(3) 主な広報実績
①NHKにて「テレビ生紀行－エッセーロマン・歴史街道」（計150回）の放送が開始（91年）
②月刊「歴史街道」、単行本「歴史街道をゆく」（PHP研究所）
③関西シンポジウムの開始
(4) その他
①ドイツ・ロマンチック街道との交流開始（06年まで）

第一期計画（1994～96年）

(1) 主な目標
①94年＝観光振興、95年＝世界への日本文化発信にそれぞれ全力注入。93年からの「歴史街道モデル事業」と合わせ、「3つの目標」の柱となる事業の確立を目指す
②96年は「柱となる3つの事業」を軌道に乗せる1年
(2) 地域づくり面での進捗
①「モデル事業」計画を94～5年に斑鳩町（奈良県）、京都市、彦根市（滋賀県）、羽曳野市（大阪府）、姫路市（兵庫県）、出石町（同）、橋本市（和歌山県）で策定。96年には室生村（奈良県）、木津町（京都府）、乙訓・八幡地区（同）、枚方市（大阪府）、今庄町（福井県）、大津市（滋賀県）、加西市（兵庫県）、紀の川大和街道周辺地区（和歌山県）
②「歴史街道構想を活かした奈良県づくり」、「近江歴史回廊構想」、「紀の国歴史文化構想」（94年）、「なにわ歴史街道事業」、「越前若狭歴史街道構想」（95年）、「みえ歴史街道構想『むすびのくにづくり』」（96年）が完成。各事業への着手がおこなわれた
③市町村共同事業（スタンプラリー・四季のキャンペーンほか）や各地域における「歴史街道マーク」の掲出がスタート（94年）
④歴史街道iセンターのネットワークがスタート（96年）
(3) 主な広報実績
①朝日放送にて「歴史街道～ロマンへの扉～」の放送が開始（94年）
②06年まで20回を数えた、東京駅における展示PRがスタート（94年）
③同じく東京にて「歴史街道説明会in東京」（堺屋太一氏ほか）（94年）、「連携する地域」（杉本苑子氏ほか）「歴史街道キャンペーン説明会」（95年）、「知的な旅を楽しむ」（ドイツ・ロマンチック街道、カナダ・メルヘン街道ほか）、「三都夏祭りジョイントフォーラム」（96年）を開催
④「小説歴史街道」「歴史街道遊び旅」（PHP）、「るるぶ歴史街道を歩こう」（JTB）「歴史街道殺人事件」、CD「歴史街道」などが出版。現在までの単行本出版は約10種類。

⑤「海外フォーラム」＜（のべ海外50都市で開催）がスタート（95年）。95年は7都市（香港、シドニー、台北、バンコク、ソウルなど）、96年は8都市（ロサンゼルス、ボストン、サンパウロ、シカゴなど）。ポスターを海外の日本料理店など約1000箇所に貼付。
⑥その他、95年にはAPEC参加関係者への資料提供（CD-ROM・4カ国語パンフ）、阪神淡路大震災の復興状況を伝えるプレスカンファレンス（外国人記者クラブ）、96年には英語版ガイドブック発行、海外旅行エージェントツアー（12カ国・32社）実施、「エッセーロマン歴史街道」のビデオ発売（NHK）。また、通産省の支援を活用し、わが国で初めての本格的HPの立ち上げ。
（4）その他
①「歴史街道100選」選定（94年）
②「歴史街道倶楽部（個人会員制度）」発足（94年）

第二期計画（1997～99年）

（1）主な目標
①「3つの柱」となる事業を軌道に乗せる
②向こう10年間、年間数個のペースで新規事業を立ち上げ、広域組織としての事業ノウハウを蓄えるとともに、組織としてのプレゼンスを確立。
（2）地域づくり面での進捗
①97年の新規事業としては、市町村マークの制定、旅行者（風の人）と住民（土の人）が協働で地域づくりへ提案する「歴史街道旅モニター」など。「旅モニター」は後の「市民参加型ワーキング」のはしりとなった。「モデル事業整備プラン」策定は南条町（福井県）近江八幡市（滋賀県）高槻市（大阪府）宝塚市（兵庫県）龍野市（同）吉野町（奈良県）新宮市（和歌山県）。
②98年の新規事業は3つの博物館（飛鳥・奈良・京都）における4カ国語音声ガイドシステムの導入、主要16ホテルにおける「歴史街道案内コーナー」設置など。「モデル事業整備プラン」策定は金津町（福井県）土山町（滋賀県）亀岡市（京都府）篠山市（兵庫県）洲本市（同）大宇陀町（奈良県）口熊野地区（和歌山県）。兵庫県において「兵庫歴史文化回廊構想」が策定。
③99年の「モデル事業整備プラン」は永平寺町（福井県）、園部町（京都府）、口丹後地区（同）、海南市（和歌山県）。地下鉄駅への「駅番号」導入提案（実現）や、大阪・曽根崎通（国道1号・2号）における「4カ国語音声観光案内板」の設置など受け入れ体制整備の先頭にも立った。
（3）主な広報実績
①「海外フォーラム」はミュンヘン、ワシントン、ミネアポリスなど7都市。
②98年新規事業は韓国の学校教員2000人を対象にした「日本内の韓民族史」ツアー、歴史街道ふるさと小包（42万部）など。「海外フォーラム」はロンドン、ベルリン、マドリッドなど7都市。ロンドン開催分は、ワールドカップに先立ち日韓の政府観光機関が共同開催する初のイベントとなった。
③99年～2000年にかけて、中国におけるわが国初の海外番組として北京放送ラジオにおける番組「神遊関西」を放送（89回）。また99年に始まった海外テレビ局のサポート事業の推定視聴者累計は10億人近くに及ぶ。同年の「海外フォーラム」は釜山、バンクーバー、シアトルなど6都市で実施。
④東京にて「三都夏祭りジョイントフォーラム」（目加田頼子氏ほか）、「歴史街道とみえ歴史街道フェスタ」（寺前浄因氏ほか）「歴史街道」（飛鳥～奈良～京都）（98年）、「歴史街道 耳寄り情報」（伊勢、大津、堺ほか）「歴史街道 三都夏祭りジョイントフォーラム」（桂小米朝氏ほか）（99年）など開催
⑤各紙による報道件数は国内300回、海外70回程度
（4）その他
①「全国総合開発計画」の近畿地域の施策として位置づけ（98年）
②「歴史街道倶楽部」会員が1万人を突破（98年）
③立教大学観光学部大学院で「歴史街道講座」開講（97年～99年）

第三期計画（2000～02年）

（1）主な目標
①広域組織としての事業ノウハウを蓄えるとともに、組織としてのプレゼンスを確立する
②中国対策など、観光立国推進の気運を先取りする

(2) 地域づくり面での進捗
① 2000年における新規事業は歴史街道物産倶楽部、ボランティアガイドによる定点案内（春秋・26組織が参加）など。「モデル事業整備プラン」は北丹後地区（京都府）、柏原町（兵庫県）、生野町（同）
② 01年には「モデル事業整備プラン」を阪南市（大阪府）、高野町（和歌山県）、御津町（兵庫県）、西熊野街道周辺地区（奈良県）で策定。新規事業として町家店舗のネットワーク形成など。この年、ツアー実施が年間30本になった
③ 02年の新規事業としては「100人委員会」の設置、京都府・奈良県連携による「六都再見」連続イベント（飛鳥京・藤原京・平城京・恭仁京・長岡京・平安京）など。「モデル事業整備プラン」は中町（兵庫県）丹波町（京都府）那智勝浦町（和歌山県）で策定
(3) 主な広報実績
① 2000年における新規事業は「10カ国語HP」（日・英・中・韓・仏・独・伊・露・スペイン・ポルトガル）の開設と中国語ガイドブックの発行など。「海外フォーラム」はソウルなど2都市。当初目標であった「関西国際空港へ乗り入れている主要都市全てで開催」を達成した。
② 01年の新規事業としては、わが国の観光系事務所として初めて「歴史街道推進協議会北京事務所」を開設したほか、スルッとKANSAIやドライブウェイ協会との共同事業推進に取り組んだ。また、「協議会発足10周年記念フォーラム」を大阪で（関西でのシンポジウム開催はのべ30回程度）
③ 02年の新規事業は外国人割引店舗のネットワーク、産経新聞全国面における「歴史街道プレゼントコーナー」の掲載（100回程度）など。東京フォーラム「歴史街道計画10年の歩みと京都・奈良の旅」開催。東京でのシンポジウム開催はのべ14回
④ 各紙による報道件数は180回程度
(4) その他
① 「インターネット博覧会」（通産省）への出展（2000年）

第四期計画（2003～05年）

(1) 主な目標
① 「テーマルート」を「3つのネットワーク」（紀伊半島、古代史＝南大阪―飛鳥・丹後＋但馬、戦国ゆかりのまち＝播磨＋滋賀＋福井）へと再編
② 「柱となる3事業」の総仕上げ
(2) 地域づくり面での進捗
① 「モデル事業整備プラン」は八木町（京都府）、三木市（兵庫県）、和田山町（同）、本宮町（和歌山県）（03年）、猪名川町（兵庫県）（04年）。当初目標であった50地区を達成。
② 古代史蹟を活用した堺～飛鳥間の連携会議が発足（03年）
③ 世界遺産登録を控えた紀伊半島にて、市民らからなる「紀伊半島連携会議」が発足（03年）
④ 「北近畿連携会議」（丹後・但馬）を結成（04年）
(3) 主な広報実績
① 海外関係では「フォーラム」活動に一段落。「ラスト・サムライ」の放映を受け、京都市とともに、ニューヨーク（ヘラルドスクエア・公使公邸）、ロサンゼルス（チャイニーズシアター・ジャパンタウンほか）にて、SAMURAI ミッションを開催（03年）、関西旅遊セミナー（北京ほか）（04年―）、大阪・京都・兵庫知事らとの「コシノジュンコファッションショー in 北京」、「SAYURI」の上映を受けた、ロス・ホノルルへの芸者派遣（05年）など。一方で、4カ国語DVD、二十一景絵葉書等を作成し、過去の参加者（4千人）への情報提供を実施
② 過去に実施した50種類余りのツアーを「歴史街道ツアー21」（メインルート12・古代史2・紀伊半島4・戦国時代3）に集約し、ブラッシュアップ。04年から05年にかけて試験的に再実施
③ 月刊「歴史街道」が創刊15周年に（03年）
④ 「歴史街道～ロマンへの扉～」が放送3000回（05年）
⑤ 展示活動（幕張メッセ、東京駅、伊丹空港、物産展など）：のべ20回程度
⑥ 各紙による報道件数は140回程度